

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 12月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201579
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ともえ
所在地 (電話番号)	静岡市葵区上土1丁目17-95 054-267-2701
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年 11月 10日

【情報提供票より】(平成19年 10月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	15

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 2階建ての	造り 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,000円		

(4)利用者の概要(平成19年 10月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80 歳	最低 73 歳	最高 90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	こじま クリニック 山田歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一建物の中に「ともえ保育園」が同居している。園庭の門扉にホームの看板と保育園のそれが並んでいて道行く人の目を楽しませ、玄関ではフレッシュなホーム長が笑顔で出迎えてくれる。野菜を刻む音・皿を洗う水音・笑い声・美味しそうな匂い・家庭的な雰囲気が漂っている。ホームは特別でない日常の暮らしがある。”できない でなく できるかもしれない”を大切に担当制をとって個別対応に力を入れている。ベテランを中心に職員同士が互いに助け合い新ホーム長を盛り上げている。ゆったりと支援出来るように業務改善を行い利用者との関わりの時間を大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善項目として「理念の共有」であるが、理念は各ユニット入り口に掲げられ又パンフレットに記載されていて誰にでも親しみやすいものとなっていた。今後さらに職員・家族・地域住民と共有し、ホームの理念を浸透させるように心がけていただきたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>新ホーム長は自己評価を「ともえ」を見直すチャンスと考えユニットリーダーと話し合い謙虚に受け止め評価した。そして外部評価の結果を職員全員で見つめ直したいと抱負を述べている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会長・大家さんを中心に多彩なメンバーで開催されていて、地域住民の意見が沢山記録されている。今後老人会の入会等を検討し要望・質問・助言を受けながらホーム運営に役立てていただきたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム長の交代・職員の入れ替わり等で家族意見を充分受け止められなかった部分はある。各担当性を活かしホーム長・職員が信頼関係を積み重ね、家族の意見をホーム運営に反映していただきたい。ホーム長は家族との食事会を計画している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、季節毎の地域行事・敬老会・防災訓練等に参加している。廃品回収・古紙回収も入居者と一緒に積極的に参加する事を話し合っている。老若男女誰でも気軽に遊びに来て頂けるようにとホーム長・職員が意気込んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に職員全員で話し合い共感できるホームの理念を創りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアーの入り口に掲げられ、実践に向けて支援しているが職員全員が共有しているまでに至らない。又家族・地域住民にホームの理念を理解してもらうまでの取り組みはない。	○	「ともえ」ホームのわかりやすい理念を職員間で共有しながら実践に向けて取り組むと共に「家族・地域社会に浸透させていくような取り組みを望みたい。地域密着型ホームとして”果たしている役割”を繰り返し話し、少しずつ勧めていただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の声かけ・季節毎の地域の行事、又敬老会への参加は隣接幼稚園の子供達・お母さんと一緒にリハーサルを行って参加をしている。今後廃品回収・古紙回収など地域活動には利用者と一緒に参加出来るように計画している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新ホーム長は今回の自己評価を機会にホームを見つめ直そうと、ユニットリーダーと共にきめ細かく評価した。外部評価を実施する意義を理解しその評価を活かして具体的な改善に前向きに取り組もうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の会長・大家さん以下そのメンバーは多彩である。会議記録には地域の人達から多くの意見が寄せられている。その意見を参考にサービス向上に繋げようとみんなで話し合いを重ね検討している。		

静岡県グループホームともえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、市町村との連携はない。	○	現場や利用者の課題解決のためには市の理解や支援など必要なことが多く、ホームの考え方や実態を市担当者によく知ってもらう為に折りに触れ伝えて交流することをお勧めしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、各家庭に健康状態・金銭管理状況・生活での変化などのお知らせ、そして手作りのともえ新聞を送付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見を受けたときは職員間で話し合っ対応している。入所時には苦情など相談窓口を充分説明している。特に苦情となって出たものはない。新ホーム長は現在、家族との食事会を計画している。	○	家族との話し合いは入所時の話し合いだけでなく入居後の家族の思いなど担当者・ホーム長が各家庭の状況に応じて時には少し時間をとって話し合い、家族との信頼関係を重ね、得られた意見をホームの運営に反映していく事をお勧めしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後しばらくは多少の異動があったが現在は職員も落ち着いてきている。新しい職員には利用者とは早く馴染みの関係を築かれるように指導し、利用者・家族に安心していただけるよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に外部研修の積極的な参加呼びかけを掲示板などでしている。事業所内の研修も計画しているが十分な研修体制となっていない。	○	各職員がサービスについての知識・理解・実践の習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるようなホームの計画が必要である。限られた職員体制の中で十分に話し合いながら研修を位置づけていく工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回、同法人のホーム長会議に出席し情報交換をしてサービス向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
お					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人・家族の不安を安心へ導く為に、まず顔を覚えていただくことから始めている。訪問面接からホーム見学して雰囲気を見て感じていただき、傾聴を大切にし、納得していただいた上でホーム利用をいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者という関係だけでなく時には近所のお友達のような関係になれるように心がけて支援をしている。個別対応に力を入れていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から聞き取りをしたり、日常の会話の中から得た情報を職員が共有し、出来るだけ意向に沿える様支援している。職員は常にアンテナを張り巡らせ、利用者の新たな一面を発見しようと前向きに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人・家族・職員等で話し合いの上作成されており、個別具体的なものとなっていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングでの状況把握と、ユニット会議での話し合いにより、3ヶ月毎の見直しを行っている。利用者の状況に変化のあった際には随時見直しもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や理美容の利用時等、家族での対応が難しい際には職員が付き添いを行っている。また、遠方からの面会の際等には、希望があればホームに宿泊する事も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は基本的にホームの協力医療機関で受診している。昔からのかかりつけ医で受診を希望する場合にはそれも可能である。受診の際、基本的には家族に協力を依頼しているが、困難な際には職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時に本人や家族と話し合ったり、協力医とも相談し検討している。現段階では医療的処置が必要になった際には病院への転院を行う方針である。今後家族からの要望が出た際の対応や、重度化に向けた職員のスキルアップ等について再度本部と検討をしていく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問時、職員は利用者に優しく温かな声かけを行っていた。個人情報の取り扱いについても職員は十分注意を払っており、名前の入っている資料等は鍵のかかるロッカーで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋の掃除をする人、新聞広告を熱心に見る人、散歩へ出掛ける人等、利用者は自分のペースで思い思いに過ごしていた。職員は業務を行いながらも、さりげなく見守り・声かけを行い利用者のペースに合わせて支援していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の際には、利用者が職員と共に調理を行ったり、テーブルのセッティングを行ったりと積極的に参加する姿が見られた。職員と利用者で囲む食卓は、ゆったりとした会話と笑い声のある温かな食卓であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に合わせて毎日でも可能である。今現在入浴時間は昼間が主になっている為、今後夜間の入浴も行っていただける様な体制作りについて、再度検討を行い利用者のより一層の満足へ繋げていく予定である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握しており、得意とする事や、力量等に合わせた活動を提供している。常に利用者の新しい楽しみを発見し、試してみようという意識が職員全員に浸透しており、その事が利用者日々の活力へと繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者がストレスを抱えぬ様、日常的に近所への散歩や食材の買い出し等へ出掛ける機会を作っている。それ以外にもイベントがあったり、花が見ごろの時期等、弁当を持って車で遠くへ出掛ける事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを心がけており、日中は施錠を行っていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行っている。今年9月の訓練では消防署の協力も得る事ができ、隣接の保育園と合同で避難・消火訓練を行う事が出来た。その際、実際に滑り台を使用しての非難訓練を行った事で新たな課題が発見出来た為、今後に向け検討をしていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量に関しては経過観察チェック表に利用者それぞれの記録が行われていたが、摂取カロリーは不明であった。水分摂取量についての記録も特定の利用者のみである。	○	今後、本部の栄養士に職員の作った献立表を定期的に見ていただく等の取り組みで利用者の更なる体調管理に繋げていただきたい。また、食事摂取量と合わせ利用者全員の水分摂取量の記録にも取り組まれない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は清掃が行き届き、居心地の良い清潔な空間となっていた。壁やテーブルの上には職員が山から採ってきた松ぼっくり・木の葉等を使ったレイアウトがされており、秋の気配を感じる事が出来た。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが、昔から使用している家具や置き物等を持ち込んでおり、それぞれの雰囲気のある自分らしい居室となっていた。		